

マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業） 令和3年度～令和5年度

ビジョン

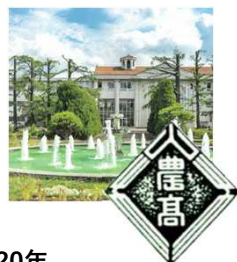
山梨ワイン発展のための協働と若手技術者の育成
～ワイン醸造学習を中心としたワイン県やまなしの地域資源活用、地域活性化、新たな価値を創造する職業人材の育成を目指して～

事業目標

- ワイン醸造学習を核に、ワイン県やまなしの地域資源を活用した地域活性化と新たな価値を創造する人材育成を目指す
- 「農業×ICT」により農業の更なる可能性を学ぶとともに、「栽培×加工×販売」までの通貫した学習により農業の6次産業化を肌で学ぶ
- マイスター・ハイスクールCEOに現役のワイナリー役員を招聘。大学・産業界・行政が強力に連携し新たな教育実践を実現

指定校の特色

山梨県立農林高等学校



- 甲斐市に位置
- 「誠実の人となれ」
- 明治36年開校
- 令和6年度に創立120年
- 山梨県唯一の農業専門高校
- 17haの広大な敷地
- 5学科を有する

○食品科学科

食品の加工や成分分析、微生物を利用した食品加工や食品衛生の技術、ワイン製造などの学習を通して、食品産業に貢献できる人材を育てます。

○システム園芸科

果樹・野菜・草花の栽培を中心に流通や販売までを学ぶほか、バイオテクノロジー、園芸デザイン等の学習を通して、農業に貢献できる人材を育てます。

○森林科学科

森林の保全、木材をはじめとする林産物の利活用、森林土木・測量の技術等の学習を通して、森林育成に貢献できる人材を育てます。

○環境土木科

道路・橋・ダムなど構造物の建設に必要な設計・施工法や測量・環境保全技術などの学習を通して、土木関連産業に貢献できる人材を育てます。

○造園緑地科

人を癒すことができる庭や公園等のデザインや計画、施工・管理の技術などの学習を通して、造園技術者として緑化産業に貢献できる人材を育てます。

組織

■ 管理機関

- ① 市区町村・都道府県：甲斐市
- ② 産業界：甲斐市商工会
- ③ 学校設置者：山梨県教育委員会

■ 意思決定機関：運営委員会

- ① 甲斐市 市長
- ② 甲斐市商工会 会長
- ③ 山梨県教育委員会 教育長
- ④ 山梨県立農林高等学校 校長

■ 事業推進機関：推進委員会

※ 以下から任命

- ① 甲斐市 産業振興部長
- ② 岩崎醸造株式会社
MHS CEO 代表取締役 白石壮真
産業実務家教員 山口美樹
- ③ 山梨県ワイン酒造組合
- ④ 山梨大学ワイン科学研究センター
- ⑤ 甲斐市商工会 事務局長
- ⑥ 山梨県果樹試験場
- ⑦ 山梨県産業技術センター
- ⑧ 山梨県教育委員会
高等教育課 農業担当指導主事
- ⑨ 山梨県立農林高等学校
農場長(指定校の事業推進の長)

■ 協力会社 20社以上

○ ワインの販売

- ・株式会社Katerial（甲斐市）
- ・J A山梨みらい
- ・いーなとうぶ竜王（甲斐市）
- ・マツムラ酒販（甲府市）
- ・リカーショップながさわ（甲府市）
- ・澤田屋酒店（笛吹市）
- ・甲州セラー凛花（山中湖村）
- ・ベーカリーループル（南アルプス市）
- ・（有）久保酒店（北杜市）
- ・イトーヨーカドー甲府昭和店（昭和町）
- ・大池ホテル（富士河口湖町）

他

○ 出前授業

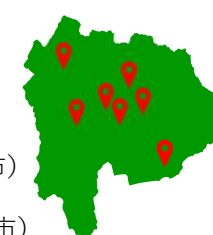
- ・サントリー登美の丘ワイナリー
- ・アサヤ食品
- ・やまなし観光推進機構
- ・甲州市勝沼 ぶどうの丘
- ・パパスロッセ（長谷部酒店）
- ・国分首都圏（株）
- ・松田賢哉（パリスタ）
- ・炭・肉と旬野菜 Kazan（レストラン）

他

○ 報道機関

- ・（株）山梨日日新聞社
- ・（株）山梨放送
- ・（株）テレビ山梨
- ・（株）エフエム富士
- ・NHK甲府放送局

他



事業計画

意思決定機関の思い描いた上記の事業概要を、CEOが方向性を検討・計画し、実行した。重要な以下の要点を同時並行的に行なっていった。

■ コンセプト

良質な教育によって生まれる成果物と、
成果物をブランディングの軸とした学校運営

○ 教育課程の刷新、環境や制度の構築

「学校の教育と企業の人材育成の融合」

- ・運営体制の構築
- ・設備投資
- ・地域資源であるワイン製造に沿った
新たな専門教育を目指したカリキュラムの整備
- ・産業界が求める人材像を把握し、
独自認定資格や授業内容・評価に反映

○ 学校のブランディング

「良質な教育によって生まれた高品質の成果物」

- ・広報活動が活発になり、
企業に取って安心感に繋がった
- ・関係人口増加で
「知っている学校」から「応援したい学校」に。

○ 自走化に向けた持続可能性の追求

「刷新した教育を未来へ繋ぐ」

- ・教師が専門知識を習得するためのフォロー
- ・金銭面の持続性
- ・SDGs的の推進＝教育活動を持続する中での
社会的課題の解決「コミュニティスクール」
- ・事業目標の明確化、プロセスと成果の数値化

3 年の活動と成果

1 年目 (9~4月)

醸造・栽培設備の充実など
主に**ハード面の整備**

環境や制度

- 運営体制の構築 (前のスライド参照)
- 醸造・栽培に関する設備投資
 - 栽培設備 130万円
 - 醸造設備 400万円
 - 分析機器 20万円
 - 圃場モニタリング機器 120万円
- ワインに関するカリキュラムの検討

ブランディング

- 製造ワインをGI Yamanashiへの申請
 - 全てのワインが品質審査をクリア
- 広報活動
 - SNSでの情報発信

持続性

- IoTを活用した醸造・栽培ノウハウのシステム化
- 展開する酒販店とのコネクションを作り、ワインを販売することで2年後のワイン醸造の予算をつくる。

2 年目

マイスターハイスクールビジョン達成のための
仕組みづくりなど主に**ソフト面の整備**

- 授業カリキュラムの策定
- 事業評価方法の検討
 - 定性・定量評価
 - 授業の質・学習の評価：ルーブリック評価
- 進路に関する取り組み
 - インターンシップ、高校への求人の説明

- 製造ワインをGI Yamanashiへの申請
 - 全てのワインが品質審査をクリア
- 広報活動
 - HPでの情報発信
 - 販売会の実施、合わせてアンケート

- 学校内外の連携強化
 - 教員への技術的なフォロー
 - 外部機関との連携プロジェクト

3 年目

地域に根付く人材の育成のための
教育活動の発展・維持

- 運営体制の強化
 - 学科長と月1回の会議
- 教科書の校正
- 独自資格の試験内容の確認
 - 4年目以降実施し、就職活動などに役立てる

- 広報活動
 - メーカーズディナー
 - 全て農林高校産ワインの計画

- 学校内外との更なる連携強化
 - プロジェクト学習
- コミュニティスクールへの発展
 - 甲斐市と連携協定を締結
 - 各学科が社会において社会を見据えた教育を目指す

マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）を終えて

・白石CEOより

管理委員会、推進委員会、株式会社ソフィア、販売や出前授業などご協力いただいた企業の皆様、そして、私が会社を不在にする中、会社の経営を支えてくれた岩崎醸造株式会社のスタッフにお礼を申し上げます。

マイスター・ハイスクールは私にとっては初めての教育の分野での仕事となりました。一緒になって事業について悩んでくださる山梨県立農林高等学校の皆様には報いるべく、私なりに生徒や学校が良い方向に進んでいけるようお力添えさせていただいた3年間で、今後何らかの形で実を結んでくれればと願っております。

マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）で感じた課題

- 教育にイノベーションを促す仕組みが学校には少ない
 - 学生の意見を引き出すメンターやコーディネーターが将来必要になってくる可能性
 - ※イノベーション＝言語化による知識の共有＝異なる知識や技術の組み合わせ課題を解決し、周囲の人間の行動を変える
- 少子化の下で生徒数を確保しなければならない
 - 教育方法をアピールすることで、食品科学科の志願倍率が改善の兆し
- 人口減少と不景気が続く中、自校の生徒を企業にしっかりとアピールできていない
 - 企業が価値を見出せるような教育方法のアピール→リクルーティングや社会貢献の未来が見えるような「広報活動」
- 一過性ではなく関わり続けるための費用捻出が難しい
 - 成果物を販売することで予算を確保
 - さらには、ガバメントクラウドファンディングやコミュニティスクールなど地域に応援してもらうことで持続性を担保
- CEOの出向（常勤）が難しいという事実
 - 兼務となれば運営体制が重要。CEOを含めた推進委員会がMHSの開始前に納得感を持ってビジョンを共有してないと事業がスムーズに進まない。
- 教員や他の学校の行動変容が起こって初めてイノベーション。教育の分野に良い影響を与えられたかの検証が必要。
 - 他のMHS校や県内の高校や教員、教育委員会が活動をどのように見ているかを調査する